

見て、学んで、楽しい。
知立歴史探訪。

知立市文化財マップ

知立を歩けば 歴史に当たる



知立市マスコットキャラクター
ちりゅっぴ

猿渡川が育む人々の暮らし

川は人々に恵みをもたらし、また河川交通における“みち”として機能しました。市域を横断する猿渡川流域では多くの遺跡がみつかり、古くから人々が生活を営んでいたことがあきらかになっています。そして、中世には荘園「重原荘」の中心地域として栄え、各宗派の寺院が集まっていました。

“ムラ”の誕生

荒新切遺跡

昭和41年(1966)の土器棺発見ののち、名古屋大学による学術調査を経て貴重な集落遺跡として周知されました。その後、猿渡川周辺に所在する各遺跡の発掘調査により、弥生時代には人々がこの地に定住して、まず当遺跡から集落をつくっていったことがあきらかになりました。なお大調査の際に出土した土器は、東海地方西部の古墳時代の土器編年基準資料として位置付けられ、重要性が高く評価されたことから、遺跡の一部を市指定史跡として公有地化しています。竪穴建物は時代により平面構造が変化していることがわかっており、弥生時代は長方形ですが、古墳時代になると正方形に近くなり、縮小されていく傾向がみられます。



市指定 荒新切遺跡出土土器



市指定 荒新切遺跡



弥生時代の竪穴建物



土のなかを掘ると
いろいろなことが
わかるっぴね。
まだまだたくさん発見が
埋まっているっぴ!



古墳時代の竪穴建物



歴史のまち、知立市

知立市は、愛知県のほぼ中央に位置しています。小さな市域ながら、『伊勢物語』ゆかりの地・八橋や東海道の宿場町・池鯉鮒宿、知立神社など知る人ぞ知る古跡や多くの文化財が存在します。猿渡川を中心とした河川交通のほか、古代官道、中世東海道(鎌倉街道)、近世東海道など各時代の主要道路が通り、絶えず人々の往来が盛んであったこの地だからこそ、豊かな歴史や文化が紡がれてきたのです。

知立市って こんなところ

貴重な資料がいっぱい!
知立市歴史民俗資料館へ行こう!

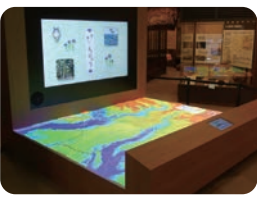


知立市歴史民俗資料館では、知立市の歴史や文化、民俗に関する史資料の収集・保存や、調査・研究、展示を行っています。ここで知立市について学んでから、文化財マップを手に市内を回ってみると、文化財めぐりがさらに楽しくなるかも!?

“みち”と集落が紡ぐ
知立の歴史

2階常設展示室のジオラマでは、河川交通や街道などの“みち”と集落の移り変わりがつくり出した知立の歴史を体験できます! 市内各地の文化財や、古地図・航空写真などを調べることもできます。

ジオラマ
プロジェクションマッピング



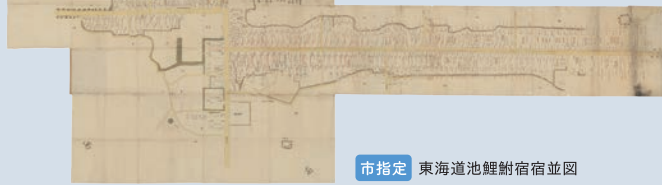
東海道の宿場と聖地

歴史のまち“知立”の象徴ともいえる、近世東海道池鯉鮒宿と知立神社。街道が付け替えられたことにより生まれた新たな町場は宿場となり、三河屈指の神社はこの地域の住民や往来する旅人の心の拠り所となりました。

東海道と池鯉鮒宿

東海道と池鯉鮒宿

織田信長によって中世東海道の南側に新街道(近世東海道)が整備されると、道沿いに新たな町場「池鯉鮒」が形成されました。その後、慶長6年(1601)に徳川家康が京と江戸を結ぶ近世東海道の宿駅と定めたことで、この町場は池鯉鮒宿となります。宿場を構成する個別町の再編成を経て、17世紀後半には本町・中町・西町・山町の4町が出揃いました。「東海道池鯉鮒宿宿並図」は宿場として完成したこの時期の町割りを描いたものです。



市指定 東海道池鯉鮒宿宿並図

知立古城跡

桶狭間の戦いでは今川勢が在城し、のちに水野忠重の居城となりました。天正10年(1582)には甲斐武田攻めの凱旋途上に織田信長が宿泊し、新築の「御屋形」で忠重の豊応を受けています。徳川政権下になると將軍家の御殿として維持され、徳川秀忠や家光が上洛の際に滞在しました。規模は約100×100mで、城郭遺構の痕跡を確認できます。また当城の存在により屈曲してつくられた近世東海道は、現在も明瞭であり、見どころのひとつです。



市指定 知立古城跡

伊勢物語が息づく地“八橋”

平安時代前期に成立した『伊勢物語』第九段東下りに、在原業平とされる主人公が三河国八橋を訪れ、「かきつばた」の5文字を頭文字に旅の心を歌に詠んだ有名な一節が登場します。この一節によって八橋は歌枕の地として後世までその名が知れ渡ることとなります。



中世東海道と八橋宿

京と鎌倉を結ぶ中世東海道(鎌倉街道)は市域において八橋を経由していました。八橋は起伏に富んだ地形であり、街道は直線化のために地を切り通すなど大規模工事によって造成されています。そしてこの地に中世の宿場八橋宿が設置されました。八橋宿は、①宿中心部の町屋、②無量壽寺を中心とした寺院群、③在家、④外縁部の渡河地点「渡り」や市場・墓地の4つのエリアから構成されていました。鎌倉時代初期に整備されたと推定されますが、史料上の初見は弘長2年(1262)であり、天正3年(1575)の織田信長による街道付け替えあたりまで機能したと考えられます。



八橋宿跡

八橋伝説地

業平供養塔とされる宝篋印塔が建つ小丘一帯が八橋伝説地です。『伊勢物語』によって名の知れた八橋は、京と東国を行き来する旅人がしばしば立ち寄る地となっていました。中世の紀行文によると16世紀には丘の上に建つ業平ゆかりの石塔の存在がみえ、近世にも複数の史料に業平の石塔について記述されています。『伊勢物語』で「かきつばた」の歌が詠まれた具体的な場所はあきらかではありませんが、この地は八橋故事の伝承地として八橋を訪れた旅人が立ち寄る名所のひとつとなっていたのです。



市指定 宝篋印塔



県指定 八橋伝説地

業平朝臣八橋図

八橋を思わせる板橋を背景として、腰を下ろしている5人の人物が描かれています。三方の前に座るのが、中心となる人物業平でしょう。『伊勢物語』第九段東下りで主人公が「かきつばた」の歌を詠んだ一場面と思われます。「狩野柳雪華」とあり、江戸時代前期の作品と考えられています。



市指定 業平朝臣八橋図

方巖売茶

高遊外売茶翁を慕って煎茶の普及につとめ、諸国の名士・文化人と交流を深めた、書・漢詩・明案等に精通する禅僧です。方巖は文化2年(1805)に八橋を訪れ、八橋古跡の再興を志し、荒れ果てた在原寺の再建に取り組みました。山門は造営したものの、唐衣殿の造営は叶わず、のちに無量壽寺に移り、再興を果たさぬまま旅先の江戸で死去します。無量壽寺には、彼が所持した竹製笈や煎茶道具をはじめ、数多くの遺品が伝わっています。



県指定 竹製笈



無量壽寺 本堂



市指定 売茶翁肖像

知立神社と人々の祈り

知立神社

創建は景行天皇の時代と伝えられ、『延喜式』にもその名が記された、三河で広く崇敬を受ける神社です。鎌倉時代には天皇家が領有し、正一位という最高位の神階が授けられました。江戸時代には、祭礼にあたって宿場の住民から山車巡行や山車文楽・からくりの余興が奉納されるなど、当地域の都市祭礼文化を醸成しました。また、まむし除けや雨乞いの御利益でもよく知られています。



国登録 知立神社 拝殿



県指定 鳥居「正式地智鯉鮒大明神」

知立神社多宝塔

多宝塔は三間二層塔婆で宝形造の柿葺きです。建立は嘉祥3年(850)とされ、現存の塔は永正6年(1509)に山岡氏によって再建されたものと伝わります。近代の神仏判然令に際し、新政府から撤去の指示がありましたが、一部改修のうえ「知立文庫」と改称したことで存続しました。大正9年(1920)には解体修理により旧態に復元されます。全国的にも類例の少ない神宮寺関連の建物であり、極めて貴重です。



国指定 知立神社多宝塔

祈りのあかし

古来より人々は神に祈り、神前で神楽や舞楽・能楽といった芸能を捧げて神をもてなしていました。知立神社には、これら神事芸能で用いられた中世の獅子頭や舞楽面・能面が遺されています。なお舞楽面や能面は雨乞いの御面としても伝わり、そのうちの能面「飛出」の表面は砂汚れの蓄積が確認されるなど、実際に使用された痕跡を見て取れます。



県指定 能面「飛出」



市指定 獅子頭

知立市へのアクセス



お車でお越しの方(市中心部まで)

- ◆伊勢湾岸自動車道(新東名・新名神高速道路経由)東京方面から……………豊田南ICより約10分大阪方面から……………豊明ICより約15分
- ◆国道1号山町北交差点より約5分
- ◆国道23号名古屋・豊橋方面から…上重原ICより約5分

電車でお越しの方(知立駅まで)

- ◆名古屋鉄道名古屋本線名鉄名古屋駅から……………特急で約20分豊橋駅から……………特急で約30分

知立市文化財マップ

編集・発行 知立市歴史民俗資料館
〒472-0053 愛知県知立市新地二丁目3番地3
Tel: (0566) 83-1133 Mail: siriyokan@city.chiryu.lg.jp
開館時間: 午前9時から午後5時
休館日: 月曜日(祝日は開館)、毎月第4金曜日
年末年始、展示替・特別整理期間

表紙背景: 歌川 広重「東海道五拾三次之内 池鯉鮒 首夏馬市」

知立まつり

毎年5月3日におこなわれる知立神社の例祭で、本祭と間祭が1年交互に開かれます。本祭では5輦の山車が旧宿場を巡行し、境内において山車文楽とからくりが奉納されます。間祭は花車巡行のみとなります。もとは知立神社の祭祀を起源とし、宿場の確立と町衆の成長により、承応2年(1653)の祭礼から山車が奉納されるようになりました。



市指定 山車

知立の山車文楽とからくり

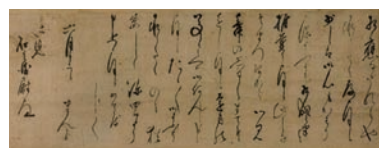
知立まつり本祭の際に山車の上で上演される人形芸能です。文楽とは3人で1体の人形を操る人形浄瑠璃芝居のことで、山車上での上演は知立が唯一です。現在は本町・中新町・山町・宝町の4町がおこなっています。からくりは後方から糸で人形を操り浄瑠璃にあわせて演じるもので、現在は西町ののみが継承しています。これら人形芸能は18世紀半ばには演じられていたことが史料から判明しています。



国指定 知立の山車文楽とからくり

こんな史料も!お万消息写

徳川家康とのあいだに結城秀康と永見貞愛という双子をもうけた知立神社神主家永見氏の娘お万の書状です。離れ離れとなっていた病身の我が子貞愛を楽しむ内容で、子を想う母の気持ち切々と伝わってきます。



市指定 お万消息写



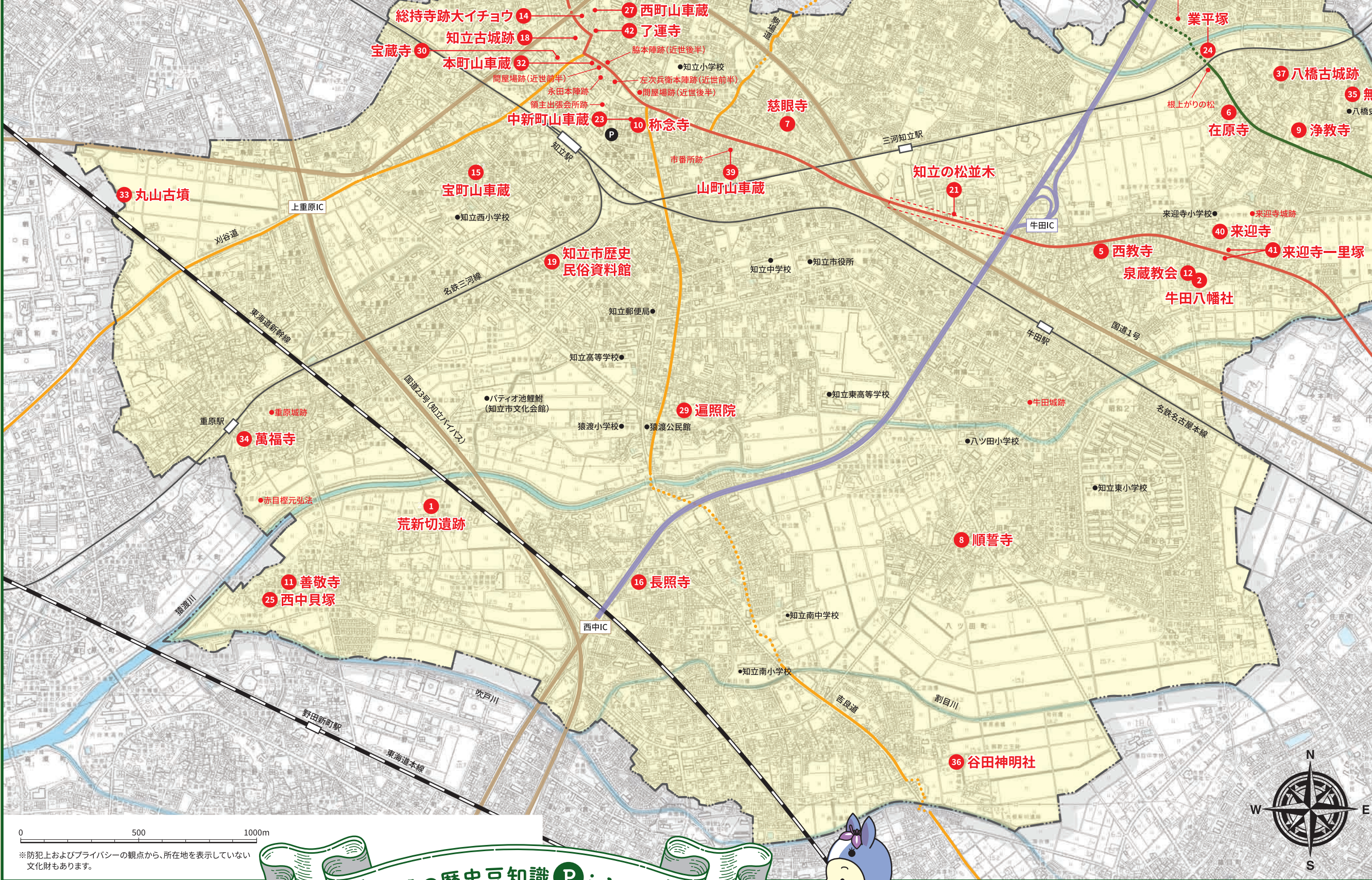
なるほどメモ

知立市内の指定・登録文化財（所在地別）

最新情報は
こちら



マップ No.	所在地	区分	種 別	名 称	時 代	備 考
1	荒新切遺跡	市指定	史跡	荒新切遺跡	弥生～中世	
2	牛田八幡社	国登録	建造物	牛田八幡社本殿	江戸	
		国登録	建造物	牛田八幡社覆屋	江戸	
		国登録	建造物	牛田八幡社中殿及び袖廊	明治	
		国登録	建造物	牛田八幡社拝殿	明治	
3	個人	市指定	考古	石蔵類	縄文	地図上への所在地表示なし
4	小松寺	市指定	建造物	井村祖風墓 微室墓	江戸	
		市指定	建造物	池鯉鮒宿脇本陣玄関	江戸	
		市指定	彫刻	地藏菩薩立像	平安	
5	西教寺	市指定	書跡	六字名号	室町	
		市指定	書跡	十字名号	室町カ	
6	在原寺	市指定	絵画	釈迦涅槃図	江戸	
7	慈眼寺	市指定	彫刻	花繪馬 絵馬	江戸	
		市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	鎌倉	像内部に毛彫・亀・馬と思われるものあり
8	順誓寺	市指定	史跡	馬市の跡	明治	
		市指定	建造物	一石五輪塔	江戸	猿渡川改修工事の際に出土
9	浄教寺	市指定	建造物	鐘樓門	江戸	
		市指定	絵画	教如上人像	江戸	
10	称念寺	市指定	方便法身尊像		戦国	
		市指定	書跡	沢庵和尚書	江戸～明治	
11	善敬寺	市指定	書跡	六字名号	江戸	
12	泉蔵教会	市指定	絵画	方便法身尊像	室町	
		市指定	建造物	吉田忠左衛門夫妻墓	江戸	
		市指定	絵画	木庵性相頂相	江戸	
		市指定	彫刻	如願菩薩坐像	江戸	
13	総持寺	市指定	彫刻	如願菩薩坐像	鎌倉～南北朝	知立神社多宝塔旧本尊
		市指定	彫刻	要染明王坐像	平安	旧総持寺本堂本尊
		市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	平安	
		市指定	彫刻	菩薩立像	平安	
14	総持寺跡大イチョウ	市指定	天然記念物	総持寺跡大イチョウ	—	
15	宝町山車蔵	市指定	工芸	山車	江戸	
16	長照寺	市指定	彫刻	十一面観音菩薩像	室町	
17	知立からくり保存会	県指定	有形民俗	知立の「からくり」	江戸	地図上への所在地表示なし
18	知立古城跡	市指定	史跡	知立古城跡	戦国～江戸	
19	知立市歴史民俗資料館	県指定	有形民俗	池鯉鮒宿本陣御宿儀	江戸	寄託
		県指定	有形民俗	知立中町祭礼座	江戸	
		市指定	考古	荒新切遺跡出土土器	古墳	
		市指定	歴史資料	御用向諸用向覧書帳	江戸	寄託
		市指定	歴史資料	東海道池鯉鮒宿並図	江戸	
		市指定	有形民俗	平治合戦からくり人形	江戸	寄託
		国指定	重要文化財(建造物)	知立神社多宝塔	戦国	
		国指定	重要無形民俗	知立の山車文楽とかからくり	—	知立山車文楽保存会 知立からくり保存会
		県指定	工芸	扁額「正二位智禪師大明神」	鎌倉	
		県指定	工芸	能面	室町	
20	知立神社	県指定	工芸	舞楽面	鎌倉	
		市指定	建造物	芭蕉句碑	江戸	旧総持寺より移転
		市指定	建造物	石橋	江戸	
		市指定	工芸	獅子頭	鎌倉	
		市指定	工芸	蛙面	江戸	
		市指定	工芸	餅口	江戸	
		市指定	工芸	蓬葉鏡	江戸	
		市指定	工芸	木矛	室町	
		市指定	工芸	簞塙菊双雀鏡	鎌倉	
		市指定	工芸	ハツ能自文双鶴鏡	戦国	
		市指定	考古	手摺形土器	弥生～古墳	
		市指定	歴史資料	徳川家康判物(写)	戦国	
		市指定	歴史資料	お万消息亭	江戸	
		市指定	歴史資料	松平清康寄進状	戦国	
		市指定	有形民俗	知立神社神輿	江戸	
		市指定	天然記念物	トネリコ	—	
		国登録	建造物	知立神社本殿	江戸	
		国登録	建造物	知立神社常殿	大正	
		国登録	建造物	知立神社拝殿	昭和	
		国登録	建造物	知立神社祭文殿及び廻廊	明治	
		国登録	建造物	知立神社摂社親母神社	明治	
		国登録	建造物	知立神社茶室	江戸	
21	知立の松並木	県指定	天然記念物	知立の松並木	—	
22	中新町祭礼惣代	市指定	工芸	山車文楽の首	江戸	地図上への所在地表示なし
23	中新町山車蔵	市指定	工芸	山車	江戸	
24	業平塚	県指定	名勝	八橋伝説地	—	
25	西中貝塚	市指定	建造物	宝篋印塔(業平供養塔)	室町	
26	西中貝塚	市指定	史跡	西中貝塚	弥生～中世	
27	西中町内会	市指定	天然記念物	イタビカズラ	—	
28	西町祭総代	市指定	有形民俗	獅子屋形	江戸	地図上への所在地表示なし
29	遍照院	市指定	工芸	山車文楽の首	江戸	地図上への所在地表示なし
		市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	江戸	
		市指定	彫刻	地藏菩薩立像	鎌倉	
		市指定	彫刻	伝秋葉権現坐像	平安	旧亀尾山安養寺天王坊本尊
30	宝蔵寺	市指定	彫刻	傳秋葉権現坐像	平安	旧亀尾山安養寺天王坊本尊
		市指定	彫刻	傳秋葉権現坐像	平安	旧亀尾山安養寺天王坊本尊
		市指定	彫刻	傳秋葉権現坐像	平安	旧亀尾山安養寺天王坊本尊
		市指定	彫刻	傳秋葉権現坐像	平安	旧亀尾山安養寺天王坊本尊
31	本町山車蔵	市指定	工芸	山車	江戸	
		市指定	工芸	山車	江戸	
		市指定	工芸	山車	江戸	
		市指定	工芸	山車	江戸	
32	丸山古墳	市指定	史跡	丸山古墳	古墳	
		市指定	天然記念物	萬福寺のイブキ	—	
		市指定	方便法身尊像 附 裏書		戦国	
		市指定	天然記念物	大ソテツ	—	
		市指定	建造物	萬福寺本堂	明治	
		国登録	建造物	萬福寺山門	江戸	
		国登録	建造物	萬福寺鐘樓	江戸	
		県指定	工芸	竹製笈	江戸	
		市指定	建造物	芭蕉連句碑	江戸	
		市指定	建造物	八橋古碑	江戸	
33	無量壽寺	市指定	建造物	宝篋印塔(杜若姫供養塔)	室町	
		市指定	絵画	赤茶翁肖像	江戸	
		市指定	絵画	蒙平朝臣八橋図	江戸	
		市指定	絵画	出山仏	室町カ	
		市指定	彫刻	観音菩薩半跏像	室町	
		市指定	工芸	長線	江戸	
		市指定	書跡	點茶	不明	
		市指定	書跡	方巖斎茶録遺墨群	江戸	
		市指定	歴史資料	南紀紀行猿蓑帖	江戸	
		市指定	名勝	杜若池	江戸	
34	谷田神明社	市指定	建造物	御倉	江戸	
35	八橋古城跡	市指定	史跡	八橋古城跡	戦国	
36	山町祭礼惣代	市指定	工芸	山車文楽の首	江戸	地図上への所在地表示なし
37	山町山車蔵	市指定	工芸	山車	江戸	
38	来迎寺	市指定	彫刻	如意輪観音菩薩坐像	江戸	
39	来迎寺	市指定	書跡	歌神図	江戸	
40	来迎寺一里塚	県指定	史跡	来迎寺一里塚	戦国	
41	了運寺	市指定	史跡	了運寺	江戸	
42	了運寺	市指定	絵画	法然上人絵伝	江戸	



ちりゅうの歴史豆知識 Pick Up!

知られざる古道 -刈谷道・吉良道・駒場道-

市域に残る歴史的な道というと、中世東海道（鎌倉街道）や近世東海道を思い浮かべる方が多いでしょう。ウォーキングや街道めぐりなどで歩かれたことがあるかもしれません。じつはそれ以外にも知られざる古道があるのです。近世東海道が通る池鯉鮒宿からは西三河各地へつながる3本の道がのびていました。刈谷へ至る刈谷道、西尾へ至る吉良道、挙母（現豊田市）へ至る駒場道です。交通の要衝“ちりゅう”を如実に物語るこれらの道は、近現代の都市化の波を受け、部分的に付け替えられた箇所があるものの、ルートとしてはその大部分が踏襲されており、拡幅や舗装などの改修を受けながら、現在も道として機能しています。少なくとも約360年前から存在しているこれらの道是非散策してみてください。意外な発見があるかも!?



池鯉鮒宿から派生する脇街道（「東海道池鯉鮒宿街道絵図」部分）

中世の贈答品 -ブランド“三河のかきつばた”-

『伊勢物語』により有名となった三河八橋のかきつばた。八橋を訪れた人々が書き記した現地での花の様子に注目が向けられがちですが、今回は遠い地に運ばれた花たちの様子をご紹介します。天文2年（1533）、京の公家三条西実隆は「三かわのかきつばた」なる見事な花を後奈良天皇に献上しています。また元亀2年（1571）には、奈良興福寺の坊官が「三河カキツバタ」を贈り物にしていることが確認できます。いずれも かきつばたには「三河の」という修飾語が付くため、ただのかきつばたではなく、『伊勢物語』ゆかりのかきつばたというブランド化されたかきつばたであったことがうかがえます。このように八橋のかきつばたは京や奈良においてブランドとなり、高級な贈答品としてもちいられていたのです。



三河八橋のかきつばた

もっと深く知立の歴史を知りたい人へ

市域の歴史を体系的にまとめた『新編知立市史』全11巻をぜひご覧ください。なかでもおすすめは「はじめての知立市史」。ビジュアル重視でわかりやすく、手に取りやすい価格で気軽に楽しめる一冊です。



閲覧場所：知立市図書館および県内外の国公立・大学図書館 ※詳細は蔵書検索
販売場所：知立市歴史民俗資料館、知立市役所市民課、知立市観光交流センター等

お出かけの前に

さっそく知立の文化財めぐりに出かけてみるっ!

文化財は所有者・管理者の方々や地域のみさんによって守られ、受け継がれてきた大事なものだ。そのことを忘れないでね。あと公開時期が限られていたり、非公開のものもあるよ。出発する前に一度調べてみよう。

わかったっぴ。他にも気を付けることがあれば教えてほしいっぴ。

神社やお寺などにある文化財は、信仰の対象であるものも多いよ。行事を行っている日もあるから、ご迷惑にならないように注意が必要だね。そして勝手に建物や私有地へ立ち入ったりしないように、マナーを守って見学しよう。

みんなに大切にされているんだっぴね。ほくたちもみんなの想いや文化財を守るために、ルールやマナーを守って見学するっぴ。

PROFILE

ちりゅっぴ
知立市が大好きな男の子。かきつばたの飾りをつけた馬パーカーを着て、鎌倉街道や馬市のあった東海道の歴史を伝える。

学芸員さん
知立市歴史民俗資料館の学芸員。知立の歴史に詳しいが、専門はお城。